

# ニトログリセリン

爆発もするけど、人の命も守ります

厚生労働省の統計調査（人口動態調査）によると、平成9年以降、日本人の死因で悪性新生物（がん）に続いて多いのは、心疾患（心臓病）です。

心臓病の一種である狭心症は、心臓を動かしている心筋に酸素と栄養を運ぶ血管（冠状動脈）が、さまざまな理由によって詰まったり細くなったりして、一時的な胸の痛みを感じるようになる症状です。

最近では医学や薬学の発達により、狭心症によく効くいろいろな種類の薬が作られています。古くから使われているのはニトログリセリンです。

1867年、アルフレッド・ノーベルがニトログリセリンを使ってダイナマイトを発明しました。

その後、ノーベルが経営するダイナマイト製造工場の従業員に、休み明けに仕事を始めるとひどい頭痛やめまいに悩まされるという奇妙な病気が流行

りました。仕事を続けているうちに症状はおさまっていきましたが、休み明けになると再発しました。このことに注目した医師の研究によって、ニトログリセリンには細くなった冠状動脈を強く広げる働きがあり、さらに全身の静脈を広げる作用もあることから、心臓の負担を減らすことが分かりました。頭痛やめまいは、健康な人の血管がニトログリセリンによって必要以上に拡張されたために起こっていたのです。

医薬品としてのニトログリセリンは、口から飲むと肝臓で分解されて効果がなくなってしまいます。このためニトログリセリンは、舌の下にはさんだり口の中に噴霧したりすることによって舌の粘膜から吸収させるもの、皮膚に貼り付け皮膚から吸収させるもの、注射で直接血管に入れるものなどのタイプがあります。これらの方法で体の中に取り込まれたニトログリセリンは、直接血液に入り冠状動脈に送られます。

ニトログリセリンはダイナマイトの原料だと聞くと、持ち歩いているときや服用するとき、あるいは体の中で爆発をするのではと思われる方もいるかもしれませんが、医薬品として処方されているニトログリセリンは、爆発をしないよう工夫された製剤になっています。



ニトログリセリン（医薬品）は、医師および薬剤師の指示の下で使用してください。

（平成21年2月）

